

## 阿蘇・鷲ヶ峰～変則チムニールート～

【報告者】I藤

【日時】2017年11月5日 【天候】晴れ

【参加者】CLM森（想山会）、ADT上（フェニックス）、I藤

### 《コースタイム》

仙酔峡駐車場 8:00－鷲見平－砂防堤 8:25－関門 8:55－9:15 ガリー2－アトムの岩  
9:40－登攀開始 10:15－ガリー3 通過－西陵 I 取付 10:35－2 ピッチ目 12:00－変則  
チムニー－西稜の肩 12:30－懸垂下降開始 13:00－懸垂下降テラス 13:40－ノーマル  
2ルート－駐車場 16:30

### 《 報 告 》

自分の誕生日に、再び阿蘇の鷲ヶ峰に参加させて頂く機会を得ました。今日という記念日に墓場になりたくないなー、私はそんな気持ちでいっぱいでした。数ヶ月ぶりでしたが、これで安全、大丈夫という余裕や確信が、自分の気持ちの中には殆どありませんでした。（それがアルパインというものでしょうか）岩のホールドは、プッシングとマントリングを意識してそおーっと登ることと呪文のように唱えていました。

当日は好天で、仙酔峡道路手前で駐車し、徒歩で駐車場へ向かいます。残念ながら、仏舍利塔の手前の車道は、数か月前よりさらに崩落していました。駐車場から関門まで、進んで行きます。さらに関門までの途中の登山道は、肩の高さまでのひどい藪漕ぎです。自分はもちろんですが、メンバーですら踏み跡を見失っていました。（スタートからすでにここで引き返したくなりますね）

関門に到着し、ギアを装着しました。レリーフは震災後も修復はされていないまま通過し、左側へ上がります。また、不安定なガレ場で、足を乗せて歩くように心がけていても、時々バランスが崩れ、石や岩はたちまち崩れます。通称アトムの岩を過ぎ、ここもガレ場をトラバースして進みます。数ヶ月前にハーケンを打った岩で（サーフボードの様な岩が残っているのが目印です）ランニングを取り、トップは T 上氏から登ってもらいました。セカンドは私で、中間エイトノットで上がります。上がり込むといきなり悪場で、2、3 歩、歩き始めた時にはガレ場が崩壊してしまい、巨石がゴロゴロと下に向かって加速しました。ラストの M 森氏は、その音に察知し、岩壁に身を寄せていたようで、何事もなく済み



ました。上がり込んだガレ場は、踏み跡の選定が確認しづらかったです。数ヶ月前は  
多人数という事もあり、フィックスロープを数十メートル程張り、アッセンダーを使用  
しました。今回 T 上氏は、岩で支点を取り、確保器を使用するシステムを行いました。  
どちらが正解なのかなと考えてしまいがちですが、どちらも一長一短なので、状  
況によって適切に使い分けることが大切だなぁと思いました。我々は、そのままコン  
テで西稜の取り付きまで移動をしましたが、先行者の歩くスピードが速いと、自分の  
足元もさらに不安定となり、後者への落石のリスクが大きくなるので、コンテはペー  
スゆっくりで心掛けます。

変則チムニールートの取り付きに到着しました。私はクライミングシューズに履き  
替えましたが、経験者の二人は

厚底の靴のままです。T 上氏—  
M 森氏—I 藤の順で T 上氏は 0  
ピッチ付近でハーケンを打ち込ま  
れていたようでした。ラストの  
「どうぞ」コールがあるまで、  
しばらく待機していましたが、  
寒いのか緊張なのか足はガク  
ガク震えが止まりませんでした。  
今回は、大勢のメンバーの



岩での  
支点構築

話し声で自分の気持ちは、かき消されていました。凸形状の岩にロープが引っかかり、  
ロープをゆるめてもらいつつ、スタンスをいちいちその都度聞いては、おそろおそろ  
崩さないよう慎重に（本当に世話が焼きます・・・）どうにかこうにか 1 ピッチテラ  
スに到着しました。テラスでは、素晴らしい眺望でした。T 上氏からくじゅうや阿蘇  
山系の遠くの山々について紹介して下さったおかげで、張りつめていた緊張が次第に  
和らぎました。

お気遣いを頂き、気分も取り戻し 2 ピッチ目は、M 森—T 上—I 藤の順で登攀を開始  
しました。（2 ピッチ目もクロモリハーケンを打ち込まれる）変則チムニールートを目  
前に、岩のルートやステップを探し、右にトラバースしながら、ゆっくり自分のペー  
スで登ることが出来ました。2 ピッチ目のテラスは西陵の肩に到着します。本日の折り  
返し地点となり、ノーマルルートで下ります。しかし、いったいどこがノーマル??

（ネーミングを変えたいものです！）T 上氏は  $\alpha$  塔の残置ロープについて、強度を何  
度か確認され、長さが足りないのではないかという会話にまとめ、まずは残置ロー  
プでバックアップを取り、懸垂下降のシステムをセット。さらに一方で、ビレイルー

## 懸垂下降&ロープダウン



プにカラビナとエイトノットをセットして、立ち木にシュリング、カラビナ、ATC 確保器で支点工作をして、クライムダウンで開始されました。

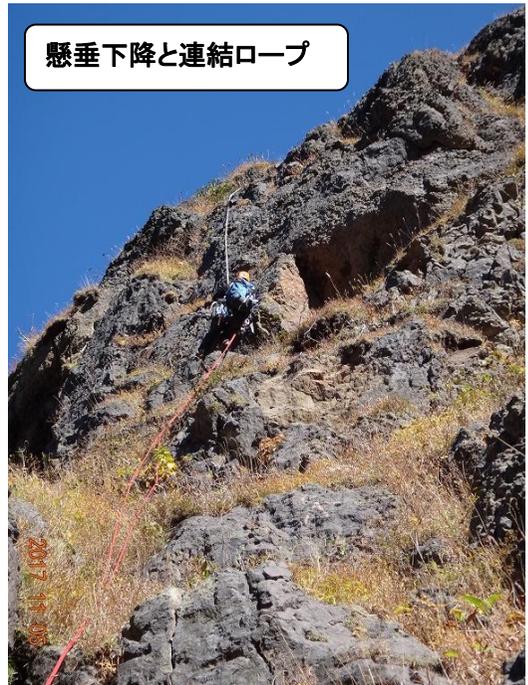
T 上氏はテラスに到着したようです。残置ロープから、確保器を自分のロープに連結すると同時に、テンションが移るので、その時には転落しないように手順を間違えないようくれぐれも注意をなささいよ、と下

から何度も繰り返しコールをされました。

ビクビクしながら、自分はセカンドで下降を開始しました。セカンドでもバックアップ付き（マッシャー）で懸垂のシステムをセットしました。一方のエイトノットは、自分のビレイループに取り付けているのが正解で、勘違いして、ギアラックに取り付けていました。リーダーからの指摘で気付きました。（目的の違いに要注意！！・・・以前は、懸垂下降の時にグレンデからコンテを開始するためにバックロープとしてギアラックに取り付けていました。その方法かと思い込み、前例と混同してしまった。）突起の岩についている残置ロープにテラスから 50 cm程上をオーバーハンドノット、さらに加えて持参のロープを中間点 2 本折りで延長し、垂らしてありました。残置ロープの懸垂下降を終え、まず足場の悪いテラスにゆっくり足を着地させます。バックアップと確保器を解除し、それぞれを連結したロープに付け替えます。付け替える時に、立ち木に繋がっているクライムダウンのロープに、自分の荷重が大きく移ることが分かります。付け替え後には、中間エイトノットを外し、連結したロープで通常の懸垂下降をしました。（ビレイ解除のコールを忘れない！）延長したロープのおかげで、広いテラスを目の当たりにし、なるほど納得、体勢も安定し、安心しました。

アルパインでは懸垂下降が絶対に必要な技術で、同時に絶対に失敗が許されない技術です。さらには、生死を左右する場合が

## 懸垂下降と連結ロープ



多いと聞きます。手順を間違わず確実に行っていく以外にも、様々なケースを想定して、安全策を考えていくことが最優先に求められ、色々なシステムを一通り経験しておく必要があるなあと痛感しました。

往路と同じルートでガレ場の下りをスタートします。靴の裏全体で静かに真下へ体重をかけることがポイントです。登り始めのサーフボードのような岩がある場所の手前に着きました。新しいクロモリハーケンが打っていたので、捨てスリングを穴にタイオフし、(ハーケンがアゴまで入っていない場合には、ブレードが壁に密着した位置にタイオフすること!) ロープを通し懸垂下降のセットをしました。もちろん石は落とさぬよう、注意して下ります。(しかし、必然的に落ちます) 行きで登った最初の岩場のスタンスは、T 上氏が見守りつつ、再び知らせてくれました。ラストのロープの回収は、スリングとロープの繊維の摩擦で切れやすくなり、さらに落石も誘発するので、作業はゆっくり行います。

この場所以降も、ガレ場が長く続きます。自分も皆さんも時々スリップをし、尻もちを付いて、何度も落石をしました。尋常でない碎石が堆積したこの場所は、不可抗力だなあという答えに至りました。むやみに前進せず、「ラーク」という声出しだけでなく、フォールライン上に人がいない事を目視で確認をし、(状況が許すなら立ち止まる) 先行者がいれば、動かないよう待機してもらい、後続は今から進む(歩く) ことなど、メンバー同士で声を張り上げていくことが大切だと思いました。

従って、起こりうる人為落石を少しでも予防し、ケガや事故を最小限に食い止めるリスクマネジメントが重要になってくると考えられます。

今回私にとって、二度目の鷲ヶ峰ですが、少人数で行う上で、改めて深い学びがありました。経験者皆様のご指導により、無事に終えました事、心よりお礼申し上げます。